

第284回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成24年1月30日（月）午後4時30分より
- 2 開催場所 新潟グランドホテル 会議室
- 3 委員総数 8人 出席委員7人

出席委員

豊口 協	委員長	大矢 純一	副委員長
笠井 明	委員	吉原 浩	委員
碓井 真史	委員	大久保 千春	委員
田村 明子	委員		

会社側出席者

代表取締役社長	前川 磐
専務取締役（報道・制作・国際担当）	奥野富士郎
常務取締役（営業・事業・編成担当）	永原 良太
編成局長 兼 放送番組審議会事務局長	駒形 正明
報道制作局長兼報道部長	稲田 裕之
編成部長	中川 保彦
制作部長	小木 裕介
合評番組プロデューサー	大橋 義宏
事務局	海津 智洋
	紫竹 聡子

4 議 題

1) 番組合評

『山本五十六』映画公開記念特別番組

どーする！？日本の未来～戦争と震災を乗り越えて～」

[放送 : 2011年12月30日(金) 14:30～15:55]

(説明 : 番組プロデューサー 大橋 義宏)

2) 会社報告

①11月、12月の視聴者の意見。 (報告 : 番組審議会事務局)

②講じた措置、公表など定例の報告等。 (報告 : 番組審議会事務局)

3) その他

5 審議の概要 (委員の意見)

会社側から、この番組は太平洋戦争開戦から70周年の節目に山本五十六の映画が公開されるのを記念して企画されたもので、山本五十六の時代を今の世相と照らし合わせながら日本の未来の道筋を探る内容にしたいと考え、論客三人(外交の手嶋龍一氏、地方行政の猪瀬直樹氏、震災復興委員の橋本五郎氏)による講演会を中心に制作したものであること。講演会では論点に「なぜ戦争をはじめたのか」と「アメリカとどう付き合っていくべきか」と「東日本大震災を乗り越えるためにどうすべきか」の3つの柱を据え、歴史に学んで方策を探っていく展開としたこと。また聴取者のインタビューなども加えて視聴者にも共感を持って考えてもらいたいと考えて制作した番組であることな

どを報告した。

●政治家の討論会ではなく、論客として手嶋氏、猪瀬氏、橋本氏という面白い三人を選んだと思った。かなりオフレコの話も出て強烈だった。メディアのあり方について、戦前の煽る一方だったメディアと今回の震災での原発報道の限界などストレートに批判していた。メディアは求められる事実を正確に伝えて欲しいとつくづく思った。

●リーダーとはどういうものか。リーダーが如何に大切かということ番組を通じて考えさせられた。

●こうした討論会を番組にして放映したのは画期的なことだと思う。こういう番組はもっと制作して放送してほしい。

●討論の内容は映画の山本五十六のイメージからは違和感があった。

●会場には年配の方が多く見受けられたが、若い人がもっと参加してほしいと思った。若い論客も加えたら良かったのかもしれないと思った。

●タイトル「どーする！？日本の未来」と番組の中身に少し違和感を持った。番組と討論の内容は「どうなる？」という未来予測か、「どうあって欲しい？」という願望であって、そこに至る「どうする？」という主体的な意図、方法論が欠落していたと思った。

●三人の論客の話は歴史上の具体的事実を教えてくれて面白いと思った人も多いと思うが、事実は事実としてもそれで彼らは何を言いたかったのかがいまひとつ伝わって来なくて、消化不良や物足りなさを感じた人も多かったのではないかと思った。

●東日本大震災については地震や津波で家や街が流されたことも事実だが、グローバル化した現代の生産活動にあって電子部品の生産拠点が被災地に集中していたためにパソコンや車が作れない事態が世界的に波及したことも現実に発生した。こうしたサプライチェーンが途絶えた事への反省を国として考える必要があるのではないかなどについて討論で言及すべきではないかと思った。

●震災の復旧復興とは別に、製造業や農業などのグローバル化への対応や原油の確保というエネルギーの安全保障をどうしていくかなどについて一貫した国民の選択を促すような発言があっても良かったと思った。

●討論後のインタビューで、若い人の「未来は捨てたものではない。自分たち若い世代が未来を背負って立つという強い志を持てば日本は良い方向に行くのではないかと思っています」というコメントや中学生の子を持つ母親が「この子が大人になった時に希望が持てるような世の中にしたい」というコメントで聴取者たちの満足感みたいなものが伝わってきて良かった。

●太平洋戦争に突入していった時代と震災後の今を対比しながら、一貫して歴史認識を土台に討論が展開されている点で脱線している感じはなかった。

●「戦後の日本は戦争を想定外にしてきた。そんな国は世界のどこにもない」「災後社会」「その国の政治は国民の水準以上にはなれない」など討論の中で印象に残った言葉があった。

●戦争をメディアが煽ったという見方があるがメディアが煽るのはオリンピックなどに見られるように今でもあり方としては同じ気がする。ただ視聴者や読者がみんなメディアは前向きに

プラス思考で煽っているということを分かっているということが前提であって、この前提が無い状況でわからないで見ていると大変なことになる。

●近代日本の歴史はあまり学校で詳しくやらないため、討論では歴史認識を土台に展開されているので考え方や見方が分かってとても面白かった。

●「どーする!？」と言われて「こうする」とすぐに答えが出てくるようなそんな簡単なテーマではないと思う。討論会が終わったあとに「どーする」かがわからないで居た。「こうする」という答えが出なくて見守っていくにしても、キーワードは何処なのか、どう考えるべきかが分かったら良かったと思った。

●論客の三人が山本五十六の映画についてどう思ったか知りたいと思った。

●被災地の人に何をしてほしいかと尋ねると、「あったことを忘れないでほしい」と答えると聞いたことがある。今後も取材し記録して発信し続けてほしいと思った。

●三人の論客は結果論としての批判ばかりをしていたように思う。歴史というのはその時にその場に居合わせなければわからないものだと思う。誰のせいでもなくみんなの責任であるはずだと思った。

●戦争は人災であり、震災は天災だったが原発事故という人災を残してしまった。消えない人災の跡を地球や人類の教訓とし、進歩の糧としてどう考えていくのかを三人の論客にもっと討論して欲しかった。最終的に「絆」や「希望」という言葉で集約していったのは残念だった。

●こうしたテーマの討論番組は県民に広く見てもらって日本の

現状と未来をじっくり考えるきっかけのひとつにしてもらえれば良いと思った。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

1 1月…… 84件。

1 2月…… 148件。

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成23年11月28日)から昨日(平成24年1月29日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

1) 前回、第283回審議会では「夕方ワイド新潟一番3部『シリーズ中越地震7年“伝えたい”東日本の被災地へ』」を審議いただきました。委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。

8 今回の第284回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。

2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

3) インターネットのTeNYホームページに議事概要を掲載します。

9 参考事項(委員への配布資料)

- ・ 11 月、12 月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・ 11 月、12 月の単発番組制作一覧
- ・ 民間放送新聞（11/23, 12/3, 13, 23, 1/3, 23 号）
- ・ BPO 報告（No. 104, 105 号）

以上